

「東日本大震災：原発事故報道と風評被害」

メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科
村田茉莉花（指導教員：大江志伸）

【初めに】

東日本大震災から、もう間もなく4年が経つ。福島県をはじめとする近隣県は大きな被害を受けた。復旧はしつづつあるものの、現在も風評被害が根深く残り、復興は程遠い。

この論文は、過去に起きた風評被害とメディアによる影響を通して、報道の在り方と風評被害の払拭の方法に主眼をおいたものであり、仮説の設定には拘らなかった。

私がなぜこの問題を取り上げたからという、2015年度卒業の私たちは震災直後に入学したこと、そして自身が福島県出身だからである。

【風評被害の定義】

風評被害とは、安全であるにも関わらず、忌避される状況を指す。風評被害という言葉は、現在は広い意味で使われているが、もとは原子力関連事故について使われ始めた。（原子力船「むつ」放射能漏れ事故、東海村 JCO 臨界事故など）

【過去に起きた風評被害】

原発事故の他、メディアの影響により風評被害が起きる、またはさらに深まる場合もある。以下は、1999年に起きた、報道による風評被害である。

所沢ダイオキシン報道(1999年)

・1992年2月放送の『ニュースステーション』で、埼玉県所沢市に多数存在する産業廃棄物処理施設から排出される焼却灰により、付近の農作物が汚染されていることを取り上げる。

・放送後、所沢産を始めとする埼玉県産の農作物が取引停止され、価格が暴落。しかも当初葉物野菜からダイオキシンが検出されたと報道されたが、実際は煎茶であった。

・この報道の一件により、『風評被害』という言葉が一般に広まるようになった。

このほかにも、小学館『週刊ビッグコミックスペシャル』に掲載された『美味しんぼ』が、風評を助長するような内容を掲載し、問題となった。

【国内外の風評被害の影響】

福島第一原発事故の影響は、国内外に大きな影響を与えた。

原発関連でいえば、原発設置計画のあった韓国東部の江原道の知事選では、原発誘致反対派が当選した。エネルギー輸入国であり、原発は必要であるとの主張が主だった韓国にとって、福島第一原発事故は衝撃的だっただろう。

風評被害での点を挙げると、台湾では震災以前は贈答用の高級品扱いであった青森県産のリンゴも、安全は保障されているにも関わらず価格が下落。青森県知事が自ら台湾に赴き、PR活動を行うも東北産というだけで避けられた。

国内の風評被害の解消無しに、国外の解決は成し得ない。しかし、国内の風評被害も未だ根深い。福島県いわき市では、「いわき見える化プロジェクト 見せます！いわき情報局」というHPを開設し、放射性物質測定データや、出荷・摂取の制限について事細かに開示している。

それでも、福島県産の農作物を店頭でみる機会は少ない。いくら科学的な安全性を主張しても、個々人の「安全」の基準は違い、手に取らない人も多い。それが風評被害を拡大させている一因にもなる。私は、これは無意識の差別なのではないかと思えてならない。

風評被害を払拭してこそ、復興が成し遂げられたと思う。これから何年かかるかわからないが、以前のよう、福島県産が当たり前と並ぶ日が早くくるよう願う。